

上之坊寺前整備の状況（次回アンケートのお願い）

上之坊の門前に駐車場・野外護摩壇、北面観音や灯籠を配置など当初計画された工事はほぼ終了して、参道入口の門柱や参道の石段の修正などが来年春季以降に施行されるのみとなりました。

当初の計画では外れていた駐車場北の北向き観音のある区域（図B）を現在の土のままにするのか舗装するか、南の道路際の畑の整備（図D）を木を植えるかなどがその後の追加工事になるかどうか残っております。

また、門前のABCの区画については、農地からの転用の承認を受けたため、宗教法人上之坊の所有が可能となり、住職個人の所有から上之坊への変更登記の作業が現在進行しております。十月末までには完了すると予想しております。

これを待つてお寺の駐車場等の認定をいただき、固定資産税が非課税になるように申告を行いたいと考えております。そして将来はABCDのすべての区画を上之坊の境内地として認定していただき、お寺の基本財産になるようにしたいと考えております。

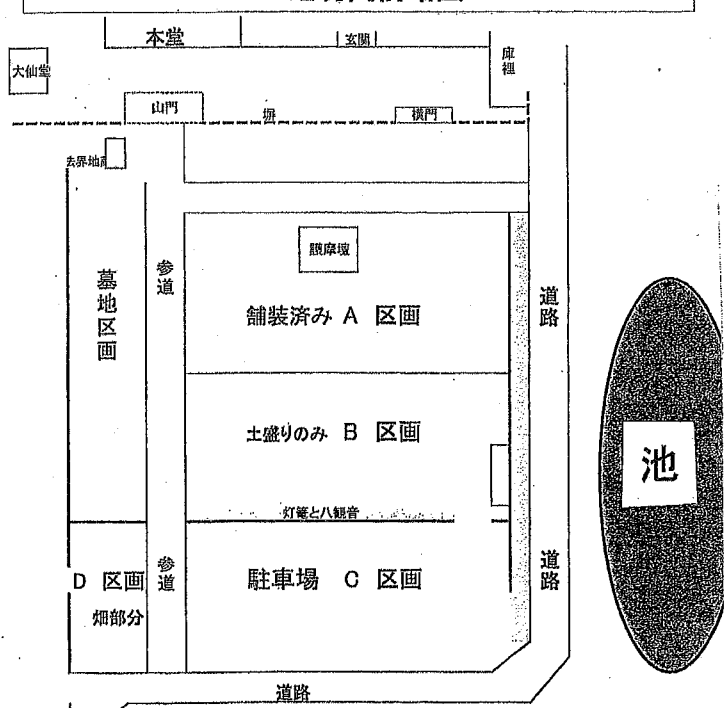
また、これに併せて、今回の門前の譲渡の代金の一部を使用し、上之坊北側の山すその農地を購入し住職個人の所有としました。今後とも以前の地権者の方には特段の事情がない限り無償でご利用いただき、将来は寺北側の庭や多宝塔への車両進入路、山の管理で利用する事にしております。

なお、来年一月に総代世話会を開催いたしますが、この資料として次回の上之坊だよりにて皆様にアンケートをお願いしたいと存じます。

返信のはがきを次回の上之坊だよりに添付しますので、名前は無記名でお願いいたします。

内容については、総代会で相談されますが、B及びD区画をどのようにするのか、寄付の札の掲示順（地域を分けて金額順にするのか、金額順にして地域を固めるのか）晋山式までにする寺内の荘厳（畳・ふすま・ガラス戸）や本堂内陣の荘厳（しようごん）、新住職の盛儀の衣（ころも）、その他晋山式の費用や段取り等です。次回よろしく願います。

上之坊門前略図



庭儀大護摩供（火渡り）十一月二十二日

上之坊門前広場で昨年に続き庭儀大護摩法会を開催いたします。日時は十一月二十二日（土）午後一時半からです。

この庭儀大護摩とは、毎月本堂内陣において焚かれていた護摩をお寺門前の広場に設けて、普段の何倍もの木を組み上げて松明で火をつけて皆様方の添え護摩木と一緒に焚き上げ、大願（所願）成就を祈念いたします。

真言宗では特に京都の醍醐寺を中心としての柴燈護摩が有名ですが、今年も尾道市御調町の真言宗醍醐派 北之坊 僧正に大祇師をお願いし、約十名程の職衆で行います。

当日の天候にもよりますので、開催は当日朝の天候を見て判断いたします。お参りの方で火渡りを希望される方はタオルなどをご用意されることをお勧めします。なお添え護摩木は一本二百円で、五本に同じ御祈願を書かれる場合は千円となります。主な御祈願は、家内安全・健康祈願などです。

また、お札のご希望の方は、木の大札で五千円となります。十一月十七日以降、前日の二十一日までに電話にてお申し込みをお願いいたします。

土砂加持法会 十一月八日

毎年恒例の土砂加持法要を十一月八日土曜日午後一時半より開催いたします。

この法会は亡くなられたご先祖の方に対し、お供え物をし「お土砂」を加持し、光明真言を唱えて回向するもので、普通の法事に比較すれば、その功德もとても大きいとされています。

当日は午後一時半より法話、二時よりとうば供養があり、引き続き土砂加持のお勤めを四時前まで予定しております。なお、法要で「板とうば」をつくり、お墓に建てたい方はお申し込みください。供養料を含めて三千円となります。

また、お墓に塔婆を建てにくい方は紙の塔婆をつくり供養を行います。供養料は千五百円です。

加持したお土砂をご希望の方は法要終了後にお分け致しますのでお残り願います。板とうば申込みの方には無料でお分け致します。またお土砂のみご希望の方には三百円のお賽銭をご用意下さい。

板とうばや供養のお申込みは別紙にてお申込み下さい。当日参加できない場合は後日の受け取りでも結構です。

なお、明年の年忌名簿については、本堂正面に土砂加持の日より掲示をいたします。

どうぞ、先祖供養をご希望の方はお参りいただきますようにご案内申し上げます。



上之坊だより

令和7年10月18日
第109号
福山市大門町大門325
電話 (084) 941-1031
fax (084) 941-1168

弘法大師聖語抄

つうきよう よわ わら
痛狂は酔ざるを笑い 酷睡は覺者を嘲る

「酔った人は、しらふな人を笑い、夢幻（ゆめまぼろし）の世界を求めて現実を理解しない人は、真面目な人を馬鹿にする」という意味です。

分別を忘れお酒に飲まれたり、携帯電話やパソコンでゲームを長時間する人も多くいらつしやいます。習慣性が強く、中毒の人もあるかもしれません。

酔った人が他人を笑えるのは、自分の情けない姿に気がついていないからであり、同じく幻の世界に生きる人には現実の世界を見失ってしまう危険性があります。

お酒もテレビゲームやユーチューブも適度に楽しむ事が肝要です。のめり込み過ぎれば現実への不適合が生まれま

す。お酒を飲まない休肝日を意識して設けたり、目の前の現実や周囲の状況に目を向ける時間を作りましょう。

現実の生活をし、実際の体験を積んで、身近な自然環境の小さな変化にも気がつくようになりたいと思います。

四国巡拝のご案内

今回で結願となる四国の八十八ヶ所巡拝は、来る十一月十一日から十三日の三日間で巡ります。

前回大雪で参拝ができなかった六十番の横峰寺を加え、六十番 三角寺から八十八番大窪寺まで讃岐の国を中心に二十五のお寺をお参りします。

金額につきましては、実費で五万円程度となりますが、今までの余剰金で多少減額が出来る

と予想いたします。

今回だけでもご参加されたい方がいらつしやいましたら是非のご参加をお待ちいたします。

真言宗の基礎知識（その五十四）

（弘法大師のご入定の後 その八）

平安時代の中期からは浄土信仰が盛んになってきます。このころから聖（ひじり）と呼ばれる半僧半俗の修行者が出現してまいります。

特に有名なのは、高野聖（こうやひじり）で、全国を回り勧進を始めます。高野山信仰と浄土信仰を併せ、念仏を唱え、各地で布教をし、人々に遺骨を高野山に納骨することをお勧めします。

この高野聖からさらに分かれたのが行人（ぎようにん）と呼ばれる人で、山岳信仰と苦行を日々の行いとしていました。

従って、高野山の寺院では学侶と呼ばれるものと僧侶の人と、行人と呼ばれる修行をする人、聖と呼ばれる納骨などに関わり念仏を唱える人が共に高野山内のお寺に住むようになりました。

誰が偉いとか偉くないではなく、それぞれが弘法大師の遺風を受け継ぎ、高野山の興隆に力を注いでいたようです。

鎌倉時代には僧侶三百人に対して、行人と聖は二千人を超えていたようですが、このような人によって真言と天台そして神道や阿弥陀信仰の交流は盛んになっていったようです。

このような時代にあつて覚鑊（かくばん）という人物が高野山に現れます。彼こそが根来寺から智積院、そして、今の川崎大師や成田山の系譜を作りあげた真義真言宗の中心人物です。

玄冬会（十二月七日）

玄冬会（げんとうえ）を十二月七日午後一時から行います。

今回は地域を散策し、ご詠歌のお唱えをして、和讃も少しだけ唱え、最後に戒律についてお話をしたいと思ひます。

ご希望の方がいらつしやいましたら前日までに電話でお知らせください。会費はワンコイン五百円です。

布薩会（ふさつえ）

布薩会を今年も行います。布薩会とは出家した人を中心に、寺に集まって今までの間違いを反省し、驕慢の心を戒める作法で、内々の儀式です。

参加ご希望の方は約一〇名と人数を限定して参拝いただきますので、お申込は十二月二十五日以降で電話でおねがいいたします。

日時は十二月二十九日午前九時半集合で予行演習にご参加いただき、午前十時半から十二時まで行われ、その後おうどんを食べて頂き解散です。参加費は一般千円となります。